

○ 本校の概要

- 学級数 22学級 ○ 児童数705名(令和5年5月1日現在)
- 教員数32名 …校長1、副校長1、主幹教諭2、指導教諭1、主任教諭5、主任看護教諭1、教諭21(随時的任用、休業等含む) ○ 行政系職員2名(事務、栄養士) ○ その他、会計年度任用職員・委託・派遣職員
- 校内研究 研究主題「互いの考えを認め合い、高め合える児童の育成」～生活科・総合的な学習を通して～
- 特色ある教育活動 … 馬込の特色を生かした地域学習の充実「シクラメン栽培」「大森妻わら細工」「馬込半白胡瓜等特産野菜の栽培」「馬込はかせになろう」、タブレットを活用した「馬込家庭学習DX」
- 体験活動、人との関わりを大切に活動の重視 ○ 学校支援地域本部「スクールサポートまごめ」と連携した教育活動
- 教員の交換授業(第5、6学年における一部教科担任制)、中・高学年での副担任制の導入

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価 人数 コメント		
ブラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。		C(児童): 「コンピュータやインターネットなどを活用して情報を収集し、自分の考えをまとめた発表したりすることができる」と回答した6年児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「学校は、外国語教育、論理的・科学的な思考力の育成、ICT活用等の今日的課題に対応した教育活動の推進に努めている」で肯定的な回答をした保護者の割合	4: 全て90%以上 3: 全て80%以上 2: 全て70%以上 1: いずれかでも70%未満		A B C D		
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。							
ブラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。		C(児童): 学校評価児童アンケート「授業で学習したことがよくわかる」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「子どもは、基礎的な学力を身に付けている」で肯定的な回答をした保護者の割合	4: 全て90%以上 3: 全て80%以上 2: 全て70%以上 1: いずれかでも70%未満		A B C D		
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。							
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。							
ブラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。		C(児童): 学校評価児童アンケート「きまりを守って行動している」及び「自分や友達のことを大切にしている」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「子どもは、やさしく思いやりのある子に育ってきている」及び「学校は、児童の基本的な生活習慣や規範意識などを育てる心の教育の推進に努めている」で肯定的な回答をした保護者の割合	4: 全て90%以上 3: 全て80%以上 2: 全て70%以上 1: いずれかでも70%未満		A B C D		
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。							
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。							
ブラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。		C(児童): 学校評価児童アンケート「運動が好きで、すすんで体を動かしている」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「子どもは、体力や運動能力、運動への意欲や健康への関心を高めている」及び「学校は、児童の体力向上や健康教育の推進に努めている」で肯定的な回答をした保護者の割合	4: 全て90%以上 3: 全て80%以上 2: 全て70%以上 1: いずれかでも70%未満		A B C D		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。							
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。							
ブラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。		C(児童): 学校評価児童アンケート「先生は、わからないことやこまったことがあるときに、助けられたり相談ののつてくれたりする」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「教員は、教え方を工夫している」で肯定的な回答をした保護者の割合	4: 全て90%以上 3: 全て80%以上 2: 全て70%以上 1: いずれかでも70%未満		A B C D		
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施し、L・O・Tを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。							
ブラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。		C(児童): 学校評価児童アンケート「宿題や家庭学習をしっかりとやっている」及び「学校や地域のことが好き」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「学校は、教育活動や学校の様子を学校公開や保護者会、学校行事、おたよりやホームページ等を活用して積極的に伝えている」で肯定的な回答をした保護者の割合	4: 全て90%以上 3: 全て80%以上 2: 全て70%以上 1: いずれかでも70%未満		A B C D		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。							
		家庭との連携により「馬込家庭学習DX」を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。